

小川流域

小川は、摺上川の主要な支流の中では、最も下流で合流している。しかし、東西に細長くのびているので、流域面積も割合に広く、南北方向に流れる支沢の数も多い。

小川の本流にそって国道一三号線が走っているので、車をフルに活用でき、アプローチは極めて簡単である。ほとんどの沢が、国道から直接取り付くことができる。

小川の本流筋は流れがゆるく、沢登りの対象とはなりえず、支流も短くて平凡なものが多い。しかし、十三沢のように、滝がいくつもかかるものもある。

この地域は栗子山塊が福島盆地へと移行する境界地域にあたり、源流

部を除いては古くから開発が進んだ。その結果、流域には人工林が多く、雑木林もほとんどが二次林である。また、最後まで炭焼きの行われていた地域で、随所に釜跡を見る。

それでも、時折ニホンザルやニホンカモシカなどが出没するなど、農地に変わっている一部地域を除くと、貴重な自然が残っている。

この地域の沢は全て短い。軽い半日行程で終るものがほとんどである。山菜でも採りながら、ちよつとした沢登り気分を味わうには、いい地域である。

